

【様式】

令和2年度 学校マネジメントシート

学校名 (尾鷲高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「個に応じ個を生かす教育の実践」 「当たり前のことが普通にできる生徒の育成」
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望を持つ生徒が、自らの目標の実現に取り組んでいる。 身だしなみや言葉遣い、社会生活に必要なマナーが身に付いている。 卒業後、地域を支えるリーダーとなる人材としての資質が備わっている。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> 生徒それぞれの学習目標に対応した教育が実践できている。 社会生活を送る上での「当たり前」を実践し、生徒の範となっている。 保護者、地域から信頼され、目指す学校像に基づいた指導ができている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を 提供する相手とそ こからの要求・期 待		<p><生徒> 楽しい学校、よくわかり参画意欲の高まる授業、安心して学習できる環境。</p> <p><地域(保護者を含む)> 進路希望の実現、地域を元気にする情報の発信。 地域のリーダーとなる人材の育成。</p>	
(2) 連携する相手 と連携するう えでの要望・期待		<p>連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> 進路希望を実現させる進学・就職指導 <中学校> 高校生活を通して成長し、生き生きとした生徒の育成</p>	<p>連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> 教育活動への支援と協力 <中学校> 尾鷲高校への進学に向けた連携・協力</p>
(3) 前年度の学校 関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> 「生徒」が前面に立ち、本校について自らの言葉で語ることは、本校をPRする格好の機会となり、在校生、中学生いずれにも良い刺激になるのではないかと。 地域連携の一環として本校との関わりを望む企業や団体は数多く、生徒が目的意識を持ち、前進するきっかけとなれば非常に良い。 卒業後、都市部へ進学、就職しても対等に渡り合えるだけの学力を付ける必要がある。基礎学力の定着のために本校の教員が行っている活動を継続していただきたい。 	
(4) 現状 と課題	教育 活動	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力・学習意欲が多様であり、それぞれの進路目標に応じた基礎学力を定着させる必要がある。 進路指導では概ね生徒の希望を実現できているが、進学については、指定校推薦など、学力試験を伴わない制度による入学にやや偏重している。 生徒の規範意識は徐々に高まっているが、一部には課題を持つ生徒も存在する。 全国・東海大会に出場する部もいくつかあるが、加入数は減少傾向にある。 	
	学校 運営等	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力向上のための組織的な取組を行う必要があるが、学級担任や教科担当者レベルでの個々の動きに留まっている。 教員の過重労働時間が多く、緩和・解消に至っていない。 毎年度、教職員の転入出が多く、業務の引継ぎが難しい場面がある。 	

3 中長期的な重点目標

教育 活動	<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本的な学力レベルを引き上げ、各学科、コースの目指す学力の定着を図るため、日々の授業を大切にし、その充実をはかる。 進路指導における対話を重視し、生徒個々の進路実現に対する理解を深めさせる。 社会人として生きるためのマナー、人権感覚、命を大切にする心を育成する。 尾鷲高校の魅力的な取組を保護者や中学校、地域に積極的に発信する。
----------	--

- ・ 基礎学力の向上に向け、学科を中心として学年、教科担当者、学力向上担当の連携を密にする。
- ・ 職員の総勤務時間の縮減に取り組み、生徒も職員も生き生きとした学校を目指す。
- ・ 業務の円滑な引継ぎと職員間の連絡・報告・相談を徹底し、効率的な校務運営を行う。
- ・ 風通しのよい職場づくりに取り組み、個々の教職員との対話を大切にし、学校に対する思いを共有し、全教職員の意思統一を図る。
- ・ 学校関係者評価委員会を通じて、校外からの観点、意見を積極的に取り入れる。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
学力定着 (教務部)	学力定着のため年間自習を 200 時間以内に納める。 【成果指標】 年度末に自習時間をカウントする。		
生徒指導 (生徒指導部)	朝の挨拶運動で挨拶と身だしなみの徹底を図り、指導の入りやすい環境作りに努める。 【成果指標】 生徒アンケートで 9 割の肯定的回答を得る。		
希望進路の実現【進学】 (進路指導部)	進学希望者に対して、個別相談・面談を増やし、また担任や保護者との連携を密にし、全員の進路希望実現を目指す。 さらに進路指導に関する校内研修を企画・実施をし、教員の指導力向上に努める。 【成果指標】 ・ 国公立大学合格者を 10 人以上出す。 ・ 大学一般入試で河合塾偏差値 60 以上の大学への合格者を出す。 ・ 短大・専門学校進学希望者の合格率を 100%にする。		
希望進路の実現【就職】 (進路指導部)	就職希望者への面談を強化し、希望職種と個人の適性とのマッチングを図る。 【成果指標】 ・ 就職内定率を 100%にする。 ・ 公務員合格者を複数名出す。		
希望進路の実現【1・2年生】 (進路指導部)	進路ガイダンス・進路講話を実施し進学・就職対策ならびにキャリア教育の充実を図る。		
人権感覚の醸成 (人権)	人権教育推進協議会(本校主催)、紀北地域人権教育推進小中高等連絡会議(尾鷲市教育委員会主催)において、人権LHR等を公開。事後の意見交換会で出された課題について、施策を検討する。 【成果指標】 年3回の人権LHRのうち、1学期と2学期には公開し、事後の意見交換会を実施する。		

教科による 資格取得指 導(情報ビジネ スコ)	資格取得に向けた補習指導を行い、難関資格（日商簿記検定 2級など）の取得や合格率向上を目指す。 【成果指標】 昨年度よりも高い合格率を目指す。		
教科による 資格取得指 導(システム工 学科)	・全員受験指導、補習指導の実施。 ・ガス溶接（2年）80%以上 ・計算技術3級（1年）100% ・危険物丙種（1年）80%以上の合格 【成果指標】 昨年度における合格率との比較		
学科におけ る基礎学力 定着指導 (情報ビジネス 科、システム工 学科)	情報ビジネス科・システム工学科において、義務教育段階の 内容も含めた学び直しを充実させ、基礎学力の定着を図る。 【成果指標】 基礎力診断テストD3対象者数を比較して、減少を目指す。		
改善課題			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
教育課程 (教務部)	新学習指導要領に向けて、新しい教育課程の研究をする。 【成果指標】 2学期をめどに4年度の入学生の教育課程を組んでみる。		
学校情報の 提供 (総務部)	学校運営が円滑に進むよう学校全体の動きを把握し臨機応 変に対応できるよう心掛け、各分掌との情報を密にする。 学校ホームページやブログの更新、パンフレットや通信紙の 作成など、幅広い広報活動を通して、学校の様子を地域に積 極的に発信する。その活動によって、学校と地域との関係を 深め、地域に根ざした安心できる学校づくりを目指す。 【成果指標】 学校ブログ・通信紙「驚高人」の更新・作成頻度を前年度 と比較して評価する。		
学校情報の 提供 (生徒会)	喫煙防止、薬物乱用防止などのボランティア活動に参加す る。 【成果指標】 地元新聞紙に2回以上掲載される。		

情報共有 (生徒指導部)	週に1回部会を開き、その時々課題を整理確認し、情報共有をすることにより問題行動の未然防止に努める。 【成果指標】 部会の回数(30回以上)と過去3年間の特別指導の延べ人数の平均を下回る。		
人権教育 (人権)	保護者宛の人権通信「素心」を発行し、啓発活動の推進を図る。 【成果指標】 年度末に検証する。		
学科情報の提供 (情報ビジネス科)	地域との連携活動を通して、学科の魅力を発信する。 【成果指標】 報道機関へ5回以上取り上げられることを目安とする。		
総勤務時間の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 月に少なくとも1回は定時退校する。(85%以上) 部活動について1週間に少なくとも1回休養日を設ける。(95%以上) 放課後に開催される会議を60分以内に終了する。(80%以上) 【成果指標】 <ul style="list-style-type: none"> 月45時間、年360時間を超える時間外労働をする教職員を0にする。 休暇取得日数を年あたり1日分増やす。 		
改善課題			

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	
学校運営についての改善策	